

立命化友会 温泉研究会ニュース No.1

2015年9月5日

発行日 2015年9月5日
編集 立命化友会・温泉研究会
編集責任者 奥野 年秀
立命館大学生命科学部事務所内
立命化友会事務局（連絡先）
TEL 077-561-2658、FAX 077-561-2659
Email kayukai@st.ritsume.ac.jp

温泉研究会ニュース創刊にあたり

白井 総（立命化友会会長、昭和56年卒）

シライ電子工業（株）会長

会員の皆様におかれましては、益々ご清栄のこととお喜び申し上げます。また、日ごろは立命化友会の運営につきまして格別のご支援・ご協力を賜り厚く御礼申し上げます。この度の温泉研究会ニュースの創刊にあたりましては、大変喜ばしいことで、お祝い申し上げます。恥ずかしながら、私自身これまで温泉研究会には参加できておりませんでした。顧問就任にあたり今後は微力ながらご協力させていただきたいと思っております。

さて、私にとって「温泉」は、ただ単に疲れを癒すものという認識しか無く温泉地もほんの数える程度しか行ったことがありませんが、日本は世界的にも火山活動が活発で温泉が多い地域であることを考えますと、この自然の力に改めて感謝し、私自身も温泉に対する認識を改めなくてはと感じております。温泉の成分や効能などは、それぞれ現地へ出向いて自分自身が見て感じてみないとよく分からない事がありますし、前もってその事を認識するかどうかによっても感じ方に差があるでしょう。また、昨今、話題となっているエネルギー問題でも地域が限定されるかもしれませんが温泉地での地熱エネルギーの利用なども興味あるところです。温泉と云うと科学的な視点での成分や効能などに話が行きやすいと思いますが、各温泉地域で発展した特有の文化や歴史なども興味深いものがあります。各温泉地は人々が行き交う場所として様々な形で温泉文化や食文化が発展してきましたので、温泉研究会も会員の皆様方の親睦の機会を作るという重要な役割もありますので、このことにも通じているかと思っております。温泉に対して、今まで認識していなかった新たな発見に期待しつつ、温泉研究会の今後の発展をお祈り申し上げます。

温泉研究会ニュース創刊に際して

—温泉研究会を提案した理由—

石井 猛（温泉研究会会長、昭和31年卒）

岡山理科大学名誉教授

私は、昭和31年に理工学部化学科を卒業した、大学院で理工学部長の田中正三郎教授（電気化学）の教室を終了後、神原富民教授（分析化学）の助手に任命され、特に「ポーログラフ法」について5年間研究を続けました。理工学部には、博士課程がないため、大阪府立大学の武者聡一教授（分析化学）のもとで助手として「交流ポーログラフによる加硫ゴム製品並びに石油製品に関する分析化学的研究」で工学博士を取得した。その後、兵庫県立公害研究所の大気部門の主任研究員として赴任した。環境庁委託の「光化学反応による有害因子生成に関する研究」に従事する中で、兵庫県下で光化学スモッグの調査研究に専念してきた。加えて、米国や韓国や中国における事例をも検討してきた。その後、岡山理科大学（環境科学コース）の主任教授に赴任した成果として、「環境化学ガイドブック」（内田老鶴圃新社）や「環境汚染物質の電気化学分析法」（共立出版）「岡山県大百科辞典」（共著、山陽新聞社）等を出版した。岡山理科大学の水質管理センターや環境資源研究センターの所長を兼任するなかで、活性汚泥法による微生物処理並びに水質分析、下水道・中水道・上水道・プランクトン等の環境に関する生態学について広範囲に研究してきた。その折、非常に繁殖力の強く水質浄化作用のあるホテイアオイの有効利用についても研究し、「ホテイアオイは地球を救う」（内田老鶴圃）を出版し好評を得たのと、研究成果を海外でも発表してきた。当時、海外では、GELENTOROLOGY（長寿学）がある事を知り、長寿に関係する水や温泉の研究をする中で、学生達と岡山県内の温泉を調査研究する、又、欧州の温泉を訪れ、「岡山の温泉」（日本文教出版）「世界の温泉」（テクノ出版）を出版した。大学を退職後、立命化友会

ニュース・27号で「温泉湯けむり談笑クラブ」（仮称）の記事を拝見して、早速、アース製菓の木村碩志氏（昭和27年卒）に立命応化会の交流の場として「温泉研究会」設立を提案した結果、応化会の総会（2010年6月）において、木村氏が「温泉研究会」設立の趣旨を発表した。赤穂温泉で第1回幹事会が開かれ、今後の計画を検討する。第1回総会（有馬温泉、同年秋）から本格的な活動に入り、第2回総会（京都・本能寺会館）、第3回総会（鷺羽山温泉）、第4回総会（龍神温泉）と続いて、今年秋には第5回総会（加賀温泉郷）が計画されています。会員皆様方のご参加とご支援ご鞭撻をお願い致します。



赤穂御岬温泉（兵庫県）（2010/6/23-24）

青春の想いと温泉への“いざない”

奥野年秀（副会長、昭和37年卒）

元兵庫県立公害研究所参事
JICA 環境化学専門員

紀州で生まれ育った身柄か子供の頃から紀南の温泉には海水浴を兼ねて度々行った、トンネルの多い紀勢西線の蒸気機関車に乗って鼻を黒くしながら、白浜・椿・勝浦の温泉で楽しんだ。学生時代には3回生の春に友と二人で南九州へ向う。ユースホテル（1泊500円）に泊まる旅は青春の忘れえぬ思い出である。神戸から二等の木製座席に揺られながら長崎へ直行して、坊中温泉から阿蘇山火口まで徒歩、指宿の海岸砂風呂に行き、都城を経由して霧島温泉郷の林田旅館（1泊1,500円）に着く。学生食堂でカレーライスが30円。部屋に通した女将が学生服を着た我々に、学生はんどこん人か？判りもはんど？お食事お風呂、いけんしもんそ？と早口で、怪訝そうな顔で言う。大学生が10人に1人の時代に、学生が贅沢な旅館に宿を取る。千本今出川の「すき焼き屋」の卒業コンパで亀の甲羅に似たベンゼン核に因んで「カメノコ会」を結成し、その後、50年有余年、毎年多くの温

泉や史跡を訪れ、現在も続いている。兵庫県立公害研究所の職場旅行でも幾多の温泉を訪れたが、お国訛りで苦勞した温泉経験は初めてである。大正時代に執筆された田山花袋の「温泉めぐり」（岩波文庫）を読むと、林田温泉に隣接する栄之尾温泉の風景や山の中の温泉で浴舎も少なく寂しい湯治場だが、綺麗で湯量の多い温泉であり、信州飛騨地方の雰囲気があると記す、当時の省線（鹿児島本線）は門司～八代までであった。兵庫県職を卒業した後、JICAでタイ、ベトナムや欧州に長期赴任しました。アジアの温泉地は開放的であり、水着の入浴や温度の低さや滝のように流れる温泉など日本と全く異なる風情である、欧州は本邦の湯治と同様にリハビリテーションを基本とする。日本でも鎌倉時代の一遍上人が別府の鉄輪温泉や箱根温泉等で全国に広めた。大橋俊雄「一遍聖」（講談社学術文庫）、参照。

2010年の春頃に石井猛氏から温泉研究会設立に誘いがあり、故木村碩志氏には立命応化会総会（同年6月）で初めてお会いした。温泉学の石井氏と碩学の木村氏の熱意に同調する、会員数の多くを得たのは応化会での豊富な人脈と思います。「立命化友会ニュース1号」参照。

温泉について

吉野盛行（客員会員、数物科・昭和37年卒）

元神戸大学医学部成長機構研究所・研究員

温泉に酔ったような文章ならば少し書けるような気がして始めました。高齢になれば、文字を見れば目がしょぼしょぼと、読みに難しく、書き難くいが宜しく願います。私は、温泉郷で名高い道後温泉の松山市街で生まれ育った者でご座います。関西地方からすれば更にのんびりした土地柄です。司馬遼太郎の「坂の上の雲」でご存知と思いますが、秋山兄弟及び正岡子規の生まれ育った里でもあります。当然、草野球や俳句を詠むのは盛んでご座います、市民の多くが楽しんでいますが、瀬戸の温暖な気候に恵まれゆったりとした気分を過ごせます。温泉研究会もゆったり湯につかった気分です、自己紹介がてらに、一言申し上げなくてはならない様です。温泉の効能はと、そんなお堅い事を言わず、日本英語のリラクゼーション（リラクゼーション）ですと答えていけば良いように思います。この度はこの辺で筆を置きます。

雑感

杉浦 静 (幹事、昭和 38 年卒)

環境設備設計事務所 (自営)

衣笠(理工学部)を出てから約 50 年余も経ち、その間ほとんどお付き合いの機会がありませんでした。立命館大学の校友会から化友会の設立の案内があり、琵琶湖・草津キャンパスを見学して総会に出席しました。総会でゴルフ、釣り、温泉の親睦会を紹介され温泉研究会に参加することにしました。私も、はや還暦、古希、喜寿を卒業し心身の劣化を意識するようになっていきます。しかしながら、まだ設計コンサルタントの現役で働いています。趣味は敢えて仕事と云っています。私の温泉アーカイブスについてアルバムを見ながら思い出しています。昭和 23 年の小学校での就学旅行が京都・奈良でした。偶然にも中学校も高校も同じ場所であり共に辞退しました。代わりに中学 2 年の夏休みに九州へ高校 2 年の夏休みに東北へ一人で旅行に行かせてもらい、費用を節約するため長距離は夜行列車を使い、同乗者は、かつぎ屋、行商人、旅芸人など多彩な人がいました。終着駅に近づくと、彼らは途中下車して朝風呂(温泉)に寄っているの、私も同行すると極めて爽快であり、彼らの会話から知らない世界を教えられ、この時に温泉の醍醐味を会得したと思います。高校時代は 5 日制で恵まれていて、上信越から立山黒部へ、下山の時には必ず露天風呂に寄りました。社会人になってからは仕事中心であり、石油ショックで余裕ができた事と、技術系にフレックスタイム制が導入されたため、露天風呂同好会を開設すると 40 名程集まり、現在、30 年経ち 15 名となりましたが、既に 77 回との事でした。平成 24 年は新潟方面、平成 25 年は長野・群馬、平成 26 年は美作三湯(奥津・湯原・湯郷)でした。当初から移動は車であり、宿は自炊するコテージ、完全自炊は現在も守っています。海外は主に欧州です、ドイツのドナウ河流域に温泉が多くあります、アイスランドのレイクキャビックは圧巻です、地球が生きている事を体感出来ました。



温泉の効能に期待すること

北尾舒彦 (顧問、昭和 39 年卒)

立命化友会・前会長

日本では、全国で温泉が湧き出しています。そして、観光地での宿泊施設となっています。つまり、温泉は観光の一部と考えられています。温泉の薬としての効用は一部の温泉では、古くから湯治場としてその薬効が認められています。しかし、その理由は明確ではなく、また何日も泊り込んで入浴しないと、効果がない様なので、日頃、仕事をしている一般人には実用的ではありません。また、美人の湯として肌がきれいになると言われている温泉もあるが、どの成分が効いているのか、明確ではありません。そこで、全国の代表的な温泉成分の分析データを収集して、何が美肌に効くのか科学的に解明してもらいたいと思っています。既に、商品として、家庭風呂に入れて使う粉末「温泉の素」は市販されていますが、あまり普及していない。その原因は、温泉の薬効が科学的に解明されていないので、宣伝に説得力がないからだと考えています。また、この商品は皮膚の弱い人には使えない。入浴すると皮膚が赤くなり痒くなる。これらがすべて解明されると、「温泉の素」も有力な商品として世の中に認められると思います。更に、温泉成分の中から病気に対する有効成分が発見されれば、入浴剤ではなくても、将来、薬として認められる。

温泉三昧

金川義孝 (幹事、昭和 39 年卒)

立命化友会副会長

なぜ、人は湯けむりに魅了されるのだろうか、私が小学生の頃、家庭に風呂がなく、ほぼ毎日一番風呂を狙い銭湯通いをし、広い湯船にゆったり浸かり、脱衣所の大型扇風機で汗を飛ばし濡れ手拭を一杯広げて乾かし、気分良く畦道を抜けて帰りました。風呂好きになった原因は、高温多湿による生活風習でしょうか。さて、立命館大学の応化会・温泉研究会の創立総会を「有馬かんぼの宿有馬」(有馬温泉)、2010 年 11 月 24 日～25 日(平成 22 年)で開催されました。発起人で世話人の木村碩志会長、石井猛副会長はじめ 7 名の参加者であった。古代から名湯として知られた茶褐色の天然温泉にまったり浸かった後、今後の運営等の検討をした。石井氏の岡山県の温泉の講演を拝聴した後、食事会の中で温泉の由来、成分、効能などの四方山話で時が経つのを忘れて非常に楽しい一時を過ごしま

した。そのことが切っ掛けで、ハイキング仲間と温泉に行く事が増え、約3年前の夏、奈良交通バス・ハイクで「みたらい溪谷」に参加した。JR 奈良駅から八木～下市町～吉野郡黒滝村の茶屋まで約2時間をバス移動、吉野郡天川村役場を起点に天ノ川にかかる吊り橋を渡り、赤色の弁天淵橋の手前から見ると「みたらい遊歩道」に入る。この辺りに来ると、空気が澄みわたり自然に溶け込むような気分になった。道中、桂の大木を眺めながら急な階段を踏みしめ登る中、溪谷の大きな岩や水しぶきをあげ流れ落ちる滝の絶景、底まで透けるエメラルドグリーン清流に圧巻され、観音峯登山口に到着して昼食を摂った。この間、約4.5kmの行程であったが、久しぶりに脚は堪えた。食後、うっ蒼と茂った林間を進み、「天の川温泉」にゴールした。その達成感を噛み締めながら湯に浸かり心から自然の恵みに感謝した。

現在、温泉研究会の会員は約110人ですが、是非、どこかで元気な顔を合わせたいですね。差し詰め、温泉愛好家の意見、旅行会社、愉快なリゾート、大江戸温泉グループ等々の情報を利用するのも一つの方法ではないでしょうか。

温泉研究会に寄せて

木村嘉勝（幹事、昭和43卒）

元労働省広島労働局長

(株)YKマネジメント代表取締役

生命の起源は、約35億年前の海底の熱水噴出孔の熱水中の有機物からタンパク質やDNAが合成されて原始生命が生まれ、この共通先祖は噴出孔周辺の有機物や硫化水素を食べて生きていたと考えられている。生命進化の果てに我々が生きており、DNAの太古の郷愁が人を温泉に誘っているように思える。露天温泉に浸かり、風、木々の緑の中に身を置くと心が安らぎ、活力が湧き、身体の細胞が太古のふるさとを懐かしんでいるような気がする。温泉研究会は、科学者の立場で「論理的に温泉を学究する左脳の温泉」、温泉の微量成分と効能の関係の解明を学究しつつ、一方で、良質の温泉でリラックスしながら過去や未来のイメージを楽しむ「右脳が喜ぶ温泉」を会員の皆さんと楽しんでいる。

国際化、成果主義等により、職場環境が厳しくなっており、労働者の60.9%（人間関係で41.3%、仕事の質で33.1%）が強い不安や悩みを感じている（平成25年厚生労働省）。また、全国の自殺者は27,283人でその原因・動機が特定された者は20,256人で、被雇用者は7,657

人であり、職場が原因・動機の者は1,895人にのぼっている（平成25年警察庁）。最近の話題として、労働安全衛生法の改正（今年12月施行）により、事業者は医師や保健師等による労働者のストレスチェックを1年1回実施して労働基準監督署に報告すること、必要な場合は本人の同意を得て医師による面接指導を実施することが義務となった（労働者数50人未満の事業場は努力義務）。

温泉は、人類の歴史の中で多くの人のストレスを和らげて活力を与えてきた実績がある。将来、例えば、医師の指導で温泉に行った場合には、確定申告で医療費控除が受けられるなどの特典がみとめられれば、多くの人のストレスが軽減され、本人の健康増進、生産性の向上、地域の活性化等に貢献できると思う。

温泉とは何か？

笠次武男（幹事、昭和43年卒）

我が国では、温泉法（昭和23年制定、51年改正）によると、温泉とは、地中から湧き出る温水、鉱水及びガス（主成分が炭化水素の天然ガスを除く）であり、温度又は物質を有するものを言う。温泉の条件は以下の通りである、①湧出時の温泉温度：25℃以上、②指定された特定成分：一成分でも規定濃度以上、③溶存物質の総量：1000mg/kg以上とする。三条件の内一条件以上を満たせば温泉と定められている。温泉の分類要件として以下に示す泉質・泉温・液性（PH）及び浸透圧があり、加えて、化学成分がある。

<泉質> 単純泉・二酸化炭素泉・炭酸水素泉・塩化物泉・硫酸塩泉など11種類に分類される。又、温泉には、火山性温泉と非火山性温泉がある。

<泉温> ①高温泉：42℃以上、②普通泉：34℃以上～42℃未満、③低温泉：25℃以上～34℃未満、④冷鉱泉（冷泉）：25℃未満に分かれる。

<液性（pH）> ①アルカリ性泉：8.5以上、②弱アルカリ性泉：7.5～8.5未満、③中性泉：6以上～7.5未満、④弱酸性泉：3以上～6未満、⑤酸性泉：3未満と定める。

<浸透圧> ①高張性泉（高張泉）：10g/kg以上、②等張性泉（等張泉）：8g/kg以上～10g/kg未満、③低張性泉：8g/kg未満に分かれる。

<化学成分> ①塩類泉：溶存物質総量、1000mg/kg以上、②単純泉：溶存物質総量、

1000mg/kg 以下、③療養泉：特殊成分（温泉水 1kg 当たり、遊離 CO₂、1000g 以上・Cu イオン、20mg 以上・Al イオン 100mg 以上・H イオン、1mg 以上・総 Fe イオン、20mg 以上・総 S イオン 2mg 以上・ラドン、100 億分の 30 キュリー単位以上）が規定されている。

＜医学的効能＞ 泉質別禁忌症と泉質別適応症に分かれるが、温泉入浴への禁忌症として、発熱等の急性疾患・活動性の結核・悪性腫瘍・重い心臓病・呼吸不全・腎不全・妊婦等が該当する、一方、神経痛・筋肉痛・関節痛・五十肩・運動麻酔・関節炎・打ち身・捻挫・慢性消化器病・痔疾・冷え症・病後回復・健康増進等の泉質適応症がある。

我が国の温泉の歴史は、飛鳥や奈良時代の風土記等に道後温泉（愛媛県）や玉造温泉（島根県）等が記載され、古くから役行者や行基や空海等の僧侶らの温泉による治療が知られている。清少納言が名湯として讚えた摂津の有間の湯（有馬温泉）や紀州の牟婁の湯（白浜温泉）等が平安時代から知られていた。「忙中閑あり」といいますが、忙しさの中に時間を見つけ楽しむという能力もこれからの時代に重要な資質であると思うと共に、仕事が一段落した、今、我々も温泉の様な非日常的な世界に身を置き、明日へのリフレッシュをはかることが必要と感じる今日この頃である。参考文献：佐々木信行「温泉の科学」（サイエンス・アイ新書）。

記憶に残る温泉

谷口吉弘（顧問、昭和 40 年卒）
平安女学院大学副学長
立命友会・副会長
立命館大学名誉教授

私の温泉体験は、今から約 50 年前、大学院 1 年の秋、初めて北海道の洞爺湖の学会に参加し、学会終了後に学会参加者ともども近くの登別温泉の第一滝本館に投宿したことに始まります。その後、地方での学会、研究会、大学訪問、家族旅行を通じて、北は北海道の登別から南は鹿児島島の指宿まで、さまざまな温泉を体験してきました。

特に印象深いのは、岩手大学と立命館大学との隔年毎の研究交流で、岩手大学でお世話いただいた先生は大の温泉好きで、岩手大学の研究会後には、いつも岩手県の秘湯を車で案内していただきました。その中で、八幡平と岩手山の山峡で湯煙をあげる松川温泉は印象深い温泉です。この地は、周囲はブナやナラの原生林に囲

まれ、3 軒の宿しかないまさに山奥の秘湯の風情が漂う温泉です。また、その豊富な温泉熱を利用して、我が国初、世界でも 4 番目となる地熱発電所が作られたことでも有名です。280 年もの歴史ある「松川荘」には松川にせり出すように造られた混浴の露天風呂があり、湯は白濁した硫黄泉で湯船も開放的で、広々として、松川の瀬音が心地よい温泉です。また、八幡平を越えて、岩手県から秋田県に入り、乳頭温泉の北、八幡平の西端にうっそうとしたブナの原生林に覆われた玉川温泉にも足をのびしました。この温泉にはラジウムが石化して放射能を放つ、我が国唯一の特別天然記念物「北投石」があります。温泉の温度は 98℃、pH1.2 の強酸性泉で、毎分 9000L もの温泉が湧き出し、その熱湯が川となって流れ出ています。混浴の大浴場には、源泉 100%の湯、50%の湯を初め蒸気湯や気泡湯などさまざまな湯船があります。この温泉には強い衝撃を受けたことを今でもはっきりと覚えています。高温に加えて、強酸性の強烈な湯のため、身体中がヒリヒリと強い刺激を受け、とても源泉 100%の湯には入れませんでした。また、入浴者の中には明らかに病人と分かる患者らしき人を多く見かけました。患者は入浴療法や経口療法、岩盤浴で病気の治療を続けています。玉川温泉はもともと湯治場で宿泊施設は 1ヶ所しかありませんので、宿泊予約は、元旦から 1 週間で 1 年分が埋まると聞いています。“万病に効く”といわれる玉川温泉に、皆さんもぜひ一度、訪ねられることをお勧めします。

温泉研究会幹事に推薦されて

児玉剛則（幹事、昭和 41 年卒）
元愛知県環境部環境管理監、愛知県
地球温暖化防止活動センター次長

副会長の奥野さんからお話があり、幹事をお受けした児玉です。いただいた活動報告を拝見すると「温泉研究会」とは、温泉を会場として化学科卒業生による同窓会と理解しました。卒業して半世紀近くもなると学窓の思い出はほとんど無くなるのですが、幸いにも三男が立命館大学法学部へ入学しましたので、立命というより京都とはあまりかけ離れた気がしておりません。昨年は、渡邊淳一著「天上紅蓮」の舞台となった花園の法金剛院へ行ってみました。また、7 年ほど前には、動物行動学で著名な日高敏隆先生に講演のお願いのため、二軒茶屋のご自宅をお訪ねしたことも懐かしい思い出です。千本今出川のお店で食事をしたとき、京都では

百年を経ないと懐石料理屋とは認められないということをお店の方から伺いました。百年はともかく、リーズナブルでお勧めがございましたら教えていただくと幸いです。高山右近由来のカトリック高槻教会を訪問したあと、蹴上のホテルで宿泊し、夜の河原町を探索しようとぶらついていたら、偶然、河原町三条のカトリック河原町教会の地下にある礼拝室をのぞいてみました。近代建築なのにとっても高貴な香りがする安らぎある空間にはびっくりでした。

最後に、京都に行く时必须訪ねるのが北野天満宮の門前にある栗餅所・澤屋です。創業 300 年。地図には「あわ餅沢屋」とあります。お店であわ餅を注文すると、その場で、あわ餅に黄粉や餡をまぶして出してくれます。いわば作り立て。何とも言えない食感と甘味に疲れがとれます。今一つ、北野天満宮には切支丹灯籠があります。どこかわかりますか。ちなみに、切支丹灯籠というのは吉田織部の考案による灯籠でとりわけ切支丹と係わりがあるようではなさそうですが、茶人好みの庭園にはしばしばみられるとのこと。

温泉研究会の面白さ

谷口 彰 (幹事、昭和 45 年卒)

年金生活者になってすぐに当研究会を知った。知らない秘湯に連れてくれるのならと受身の気持ちで門を叩いたが、その時は先輩ばかりであった為、若い人にも幹事をしてもらおうとの趣旨で白羽の矢を立てられ、幹事役を引き受け、今に至っている。その後、すぐに、私より若い方々も入会され幹事に名を連ねる事になった。この会のユニークさは、ただ、秘湯に入浴するのではなく毎回「温泉」をテーマにした世界の情報が会長以下の幹事皆様の豊富な知識をおり混ぜ聞ける事です。大学教授や公務員や会社技術者等の OB と現役時代の職種も年齢もまちまちであるが、温泉で入浴する好みの共通点と個性豊かな幹事の皆様でもある。故木村会長の講話「家庭の入浴剤」を拝聴したのは光栄でした。当会は現役を終えた男ばかりの集まりと思うかも知れませんが、昨年の晩秋に訪れた龍神温泉（和歌山県）では、平成 26 年に生命科学部を卒業した若い乙女（2 名）も参加され、華やいだ雰囲気の中で楽しい一時を過ごさせて頂きました。現在の会員数は約 110 名と聞いているが、毎回の温泉旅行（総会）への参加者の大部分は幹事であり、“一度、行ってみよう”と、多くの会員皆様方が参加されんことを期待します。

温泉を楽しみましょう

金澤房雄 (幹事、昭和 49 年卒)

5 年前に 60 歳で定年を迎え、それまでの煩わしい会社人としての生活から開放されて、気ままに暮らしてきました。しかし、急に毎日が日曜日となると、次第に……ですね。その様な時に旧立命館化会から同好会の案内があり、温泉研究会に入会しました、京都ホテル本能寺会館（第 2 回総会）からの参加です。大学を卒業後は転勤もあり、会費を納めるだけで同窓会等に参加することは一切無縁でした。全く感心が無かったのでしょうか。尤も、研究室でお世話になった恩師の退官祝賀会だけには出席しましたが！現役時代は本社（大阪）と地域の事務所（私の故郷と周辺地域）の往復転勤が多かったのですが、会合で温泉を利用することがあったり、域内の出張ではビジネスホテルではなく温泉に泊まることも稀にありました。お酒が飲めてくつろいで泊まれるのが理由で、温泉の名前や効能はいつでもよかった気がします。酔っ払って帰る心配がなく、その場ですぐに眠れるのと朝風呂がいいからですね。道後、湯田、玉造、皆生、湯原等の有名な温泉もありましたが、特に、祖谷や立久恵峡の温泉が記憶に残っています。昨年の龍神温泉は高野山の見学もあり、良い温泉でした。「亭主、元気で留守がいい」は、世間の多くの奥様の願望と聞きますが、亭主の定年後も恐らくそうでしょう。体を適度に動かして元気に、趣味を持って心楽しく温泉でリラックスして心身共にいつまでも健康でありたいものである。

温泉研究会の幹事に就任して

塚原俊文 (幹事、昭和 55 年卒)

北陸先端科学大学大学院大学教授

温泉研究科の皆様、初めまして、北陸先端科学技術大学院大学の塚原と申します。この度、奥野様からのご指名で幹事の末席に連なることになりました。よろしく願いいたします。昭和 55 年に卒業し、その後、埼玉大で修士、徳島大で博士を取得し、国立精神・神経センター神経研究所勤務を経て 2003 年に今の大学に着任しました。

北陸先端大は元ヤンキースの松井秀喜氏の故郷、石川県能美市にある国立の大学院

大学です。文部省がアメリカ式の大学院教育をモデルに創設した、学部を持たない大学院だけの大学です。地理的な関係で奈良先端大をご存知の方は多いと思いますが、その1年前に創設された日本初の独立大学院です。従って、設備や教員のレベルは旧帝大に次ぐ内容を誇っていますが、学生集めには毎年苦勞をしております。皆様の周りに大学院進学を考えていらっしゃる方がおられましたら、ぜひご連絡下さい。さて、石川県は温泉の多いところの様で、加賀4温泉をはじめ、能登の和倉温泉、金沢の奥座敷・湯涌温泉など枚挙にいとまがありません。今年は加賀4湯の中でも最も著名な山中温泉で研究会を開催することとなったとのことで、私もぜひ参加させていただきたいと考えております。山中温泉は、僧行基が薬師如来のお告げによって発見したと伝えられる、開湯1,300年の歴史を誇る温泉です。湯元でもある「菊の湯」と呼ばれる共同浴場総湯は古くから芭蕉をはじめとした多くの文人墨客に愛された温泉で、湯量豊富でさらりとした肌ざわりが特徴とされています。地名の通り、山の中にあり、溪谷と古くからの街並みが楽しめるだけでなく、温泉街らしさあふれる「ゆげ街道」や九谷焼や山中塗の体験施設の他、芸能を鑑賞できる「山中座」もあります。地酒の試飲もありますので、左党の方にもお楽しみいただけます。ぜひ、この機会に山中温泉にいらして下さい。

<龍神温泉の美人湯>

紀州の日高川上流に立地する龍神温泉は山深い溪谷の龍神村にある。由緒書きには奈良時代の役行者又は平安時代の空海が開湯したと述べているが、大峰山系に古くから伝わる山岳信仰と荒行で知られる山伏が発見したと考える方が道理にかなう。我々一行の10数人は、2014年の晩秋に龍神温泉を訪れ「季楽里・龍神」と称する宿に泊る。この宿は、国民宿舎であったが、解体後、平成16年に新築開業したとのことである。驚いたことに、女性の外国人が数名ほど宿泊していた。昔から、「日本三美人の湯」と言われ女性に人気があったが、秘境の温泉にも欧州人が訪れているとは、不思議である。因みに、公式の温泉分析データを支配人から貰い解析すると、陽イオンはNa:96%、Ca:2%、K:1.5%、Mg:0.7%等であり、陰イオンは炭酸水

素イオン:90%、OHイオン:4%、炭酸イオン:4%等であった。泉質はナトリウム・炭酸水素塩温泉であり、pH:8、源泉の泉温:42℃、浸透圧:低張性である。有馬温泉の泉質と比較する、3源泉によって異なるが、ラジウムを含む放射能泉や含鉄塩化物泉を除く炭酸水素塩泉では含有化学成分の量は異なっていないが、メタ珪酸:66mg/100ml、メタ硼酸:18.5mg/100mlが多く含まれている。龍神温泉で入浴すると、肌のスベスベ感があり、美肌の美人になると言われる理由は、メタ硼酸にあるのではと、思いながらゆったりと元湯に入浴し、冷気の漂う岩風呂でも低温の湯に入りながら、霧深い森の風情を楽しむ。帰路は宿の送迎バスで高野龍神スカイラインを通り高野山に向かう、途中の護摩壇山系(標高、1000m以上~1372m)を一望できるスカイタワー展望台の近辺でバスを降りるが、濃霧のため紀州の最高峰が見えない。高野山で昼食して、10数年振りに金剛峯寺や奥の院を見学した。ここでも、白装束の脚絆と傘がけした外人を多く見かけ、高野の雰囲気が一昔前と一変していた。旅行には生命科学部を昨年卒業した若い二人の女性の参加があり、懇親会やバスの行程で華やいだ雰囲気を醸し出した。彼女達は明朝に出勤するため、高野山の見学に同行できないとの事で、昼食の予約キャンセルをレストランに携帯電話で通話したが、山岳地帯では電波が届かないのに閉口した。バスの運転手に頼んで高野山のケーブル駅まで彼女達を送り、送迎バスを帰した後、昼食を採り名刹の見学に向かう。下山はケーブルカーで極楽橋まで行き、南海電車の高野線で帰路についた。(奥野)



龍神温泉 (和歌山県) (2014/11/29-30)

<立命化友会・温泉研究会の活動記録>

- 2010年 立命化友会・総会、温泉研究会設立の趣旨説明（木村碩志・会長）
（平成22年6月27日、京都タワーホテル）
- 2010年 設立総会（かんぼの宿：有馬温泉：兵庫県神戸市）（平成22年11月24日～23日）
・岡山県の温泉（石井 猛・副会長）
- 2011年 第1回幹事会（かんぼの宿：赤穂御岬温泉：兵庫県赤穂市）（平成23年6月23日～24日）
・アース製薬赤穂工場・研究所見学（木村碩志・会長）
- 2011年 第2回総会（ホテル本能寺会館：京都市）（平成23年12月16日～17日）
・家庭の入浴剤について（木村碩志・会長）
・日本と世界の温泉（石井 猛・副会長）
・古代ローマの公衆浴場と温泉（奥野年秀・幹事）
- 2012年 臨時幹事会（京都タワーホテル：京都市）（平成24年6月11日）木村碩志会長
・戸谷順造幹事の逝去に伴う会議
- 2013年 第3回幹事会（宇多野ユースホステル：京都市）（平成25年7月8日～9日）
- 2013年 第3回総会（下電ホテル：岡山県倉敷市）（平成25年11月11日～12日）
・岡山県の温泉（NHK・TV：DVD）（石井猛・会長）
- 2014年 第4回幹事会（宇多野ユースホステル：京都市）（平成26年6月28日～29日）
- 2014年 第4回総会（龍神温泉：和歌山県田辺市龍神村）（平成26年11月29日～30日）
・高野山金剛峯寺・奥の院の見学
・古代ローマの公衆浴場（その2）（奥野年秀・副会長）
- 2015年 第5回幹事会（宇多野ユースホステル：京都市）（平成27年4月23日～24日）
・「湯めぐり会」（トヨタ系会社OB会）の最近情報：DVD（杉浦静・幹事）
- 2015年 臨時幹事会（宇多野ユースホステル：京都市）（平成27年9月5日～6日）
・温泉研究会ニュース（創刊号）の編集会議
- 2015年 第5回総会（山中グランドホテル：山中温泉、石川県加賀市）（平成27年10月17日～18日）予定
・加賀温泉郷・観光地の見学

立命化友会／温泉研究会-幹事・顧問-名簿 (2015.9.3 現在)

- 会長 石井 猛（昭和31年卒）
副会長 奥野年秀（昭和37年卒）
幹事 杉浦 静（昭和38年卒）、金川義孝（昭和39年卒）、児玉剛則（昭和41年卒）、木村嘉勝（昭和43年卒）、笠次武男（昭和43年卒）、谷口 彰（昭和45年卒）、金澤房雄（昭和49年卒）、塚原俊文（昭和55年卒）、塩見 宏（平成3年卒）
顧問 北尾舒彦（昭和39年卒）、谷口吉弘（昭和40年卒）、白井 総（昭和56年卒）

<編集後記>

立命化友会・温泉研究会ニュースの創刊について、当研究会の幹事会で計画され、立命化友会の幹事会でも了解されました。温泉は、古代から湯治による心身の癒しとして日常生活に根付いています、江戸時代には銭湯や湯場が発展し庶民の娯楽も兼ねたコミュニケーションの場として現代に続いている。当研究会は、化学科等の理系卒業生によって構成されているため温泉の化学成分や効能に重点を置いてきましたが、硫黄泉の硫化水素による事故が社会問題になり、温泉地の安全性に関しても言及する予定です。また、温泉の歴史について探索できれば幸いです。ニュース誌は年1回発行します、会員の皆様方からのご意見や話題も載せます。

なお、温泉研究会ニュースNo1発行に関して、本年9月5日の臨時幹事会（編集会議）における決定から、当該ニュースの印刷費は有志からの配慮を受けました。次号からは立命化友会から印刷費の供与を受ける予定であり、上質の印刷に変更する予定です。

加えて、レイアウトや図案等にご尽力頂いた木村嘉勝氏（幹事）にお礼申し上げます。（奥野）